

保護者のみなさま

箕面市立第二中学校  
校長 俵積田 武志

## 学校教育自己診断の報告について

早春の候、保護者のみなさまにおかれましては益々ご健勝のこととおよこび申し上げます。平素は本校の教育活動に温かいご理解とご支援をいただき、誠にありがとうございます。

さて、昨年(2024年)の11月、保護者のみなさまを対象に箕面市内同じ内容で、「学校教育自己診断」を実施いたしました。お忙しい中、ご協力いただきありがとうございました。アンケートの提出の回収率は約79%(昨年度-2%)でした。集計結果及び考察を以下にまとめましたので、ご報告いたします。今後も、一人ひとりの子どもたちの良さを認め伸ばしていけるよう、保護者のみなさまとの連携を大切に、教職員一同、力をあわせて頑張っていきたいと思いますので、ご支援・ご協力をお願い申し上げます。

## ★集計について

質問は30項目で、以下の選択肢で回答を求めました。

A)よくあてはまる B)ややあてはまる C)あまりあてはまらない D)全くあてはまらない E)わからない  
質問をグループに分けて、3年間の肯定的回答(A+B)%の集計を並べました。

## ■教育方針、全般的なことに関して

設問	項目の内容	R4	R5	R6
1	子どもは、学校に行くのを楽しみにしている	79	78	78
2	子どもは、自分の学級が楽しいと言っている	81	78	81
10	学校は、教育方針をわかりやすく伝えている(教育目標を含む)	76	66	68
26	学校運営に校長のリーダーシップが発揮されている	62	58	56

設問1「学校に行くのを楽しみにしている」と設問2「自分の学級が楽しいと言っている」に関しては、ここ3年80%近くの肯定的回答があります。お子さまが学習面、友だち関係、生活面など、壁にぶつかることや悩んでしまうことなど、そのような様子を見て、20%近くのお家の方が「そうでない」と回答されています。学校とご家庭が互いに協力しながらお子さまの心の揺れを受けて止め、課題に寄り添ったサポートを続け、子どもたちが「学校や学級が楽しい」と感じる学校づくりに努めていきたいと思えます。

設問26「校長のリーダーシップが…」と設問10「学校は、教育方針をわかりやすく…」に関しては、校長から学校全般に関する情報を二中ブログで記事として発信させていただいています。新型コロナウイルス感染関係の発信が終息し、学校発信のメール等が減少してきました。引き続き、二中ホームページの「校長から」のページや二中ブログ、デジタル連絡帳「トモリンクス」などを活用し、二中を含むさまざまな教育関係の情報配信を積極的に行っていきたいと思えます。

## ■保護者・地域に関して

設問	項目の内容	R4	R5	R6
11	学校は、保護者・地域の願いに応えるよう努力している→(R5より)学校は、保護者・地域と学校の課題を共有し、保護者・地域に教育活動の支援ができる機会をつくっている	77	66	70
12	学校は、保護者の相談に応じてくれる	82	80	79
20	学校は、家庭への連絡や情報提供を行っている	87	83	85
22	学習の内容や進度(行事)等を懇談や学級(学年)通信などによって知ることができる	83	77	82
23	デジタル連絡帳によって、学校との連絡がスムーズになった	59	66	75

28	電話での問い合わせや学校を訪問した際、担当者が明確で迅速かつ丁寧な対応が行われている。	78	77	74
29	学校、学年、学級に決められているルール等は、子どもの状況にあった適切なものになっている。	69	61	65

設問11「学校は、保護者・地域と学校の課題を共有し…」に関しては、月ごとにPTA運営委員会を開催し、教育活動にご支援いただく機会の調整等は行っています。11月のオープンスクールの参観後にPTA学習会を企画しました。保護者と教職員が中学生の発達段階の特徴を理解し、より良い成長をサポートしていくために一緒に考える有意義な時間となりました。今後もそのような企画を実現していきたいと考えます。

また、学期ごとに学校協議会を開催しています。12月では委員さんに授業見学をしていただいたのちに学校の現状や昨今の教育課題に関するディスカッション等を行いました。内容等については「二中の窓」（学校だより）や二中ホームページで発信していきたいと思っております。

設問12・20・22・23「保護者の相談などご家庭との連携」「家庭への連絡や情報提供」に関しては、担任や学年教員から学級通信や学年だよりをプリントやトモリンクス通じてお知らせしております。また、トモリンクスでの欠席連絡など保護者の方々と連絡がスムーズになってきています。個人情報等に注意を払い、複数教員による確認を心がけ、さらなる活用ができればよいと思っております。

設問12「学校は、保護者の相談に応じてくれる」、設問28「保護者の方への電話の対応…」に関しては、直接お会いしてお話をするなど、丁寧にわかりやすく対応していくことを心がけてまいります。また、平日の夜18時から朝8時までは電話がセキュリティ会社に転送となります。この点もしっかりと考えて対応を心がけていきたいと思っております。保護者の方々もご理解のほどよろしくお願いたします。

設問29「学校、学年、学級のルール等…」に関しては、子どもたちの意見等を聴き、教職員と話し合いながらルールの変更等に取り組んでいくことができると考えています。

## ■授業・評価に関すること

設問	項目の内容	R4	R5	R6
3	子どもは、授業が楽しくわかりやすいと言っている	58	59	59
4	子どもは、家庭学習を自主的に行っている	55	56	54
8	先生は、子どもの評価を適切・公平に行っている	69	65	69
24	通知票は、子どもの学力や達成度をわかりやすく表すように工夫されている	78	76	79
5	子どもは、英語でやり取りしたり、発表したりすることに、前向きに取り組んでいる。	56	55	46
6	子どもは、タブレット端末での学習（デジタルドリルを含む）に意欲的に取り組んでいる	36	26	30

設問3「授業が楽しくわかりやすい」に関しては、子どもたちの肯定的な回答率をアップさせることを念頭に、毎日の授業づくり研究に力を注いでいます。ご家庭の方々からの肯定的な回答もアップしていけることを意識しつつ、これからも尽力していきたいと考えます。ここでは、4年間で掲げたテーマを紹介します。

■令和3年度（2021年度）→「授業をつくる全員が『学ぶことは楽しい』と実感できる授業をめざして」

～認め合い、高め合い、学びを楽しめる子」を育てたい～

■令和4年度（2022年度）→「子どもたちが熱中する教室」

～モチベーションを上げるしかけづくり～

■令和5年度（2023年度）→「生徒主体で学び合い」～自信あふれる環境づくり～

協働学習をすすめながら基礎学力の定着をめざす研究

■令和6年度（2024年度）→「子どもたちが学びを楽しみ、力をつけられる授業をめざして」

～言葉を通して気づき、考え、伝え合う力をつけさせたい～

今年度は「教材の工夫を通して、気づきを言葉にする力をつけさせる研究」「考えたくなる問いを通して、考えをつくり出す力をつけさせる研究」「様々な活動を通して思いや考えを伝え合う力をつけさせる研究」という3つの研究グループに分かれて授業づくりに励んでいます。教科の特性もありますが、この4年間、二中ではすべての授業において、数値化はできないが求められる能力、CMでも流れ始めている「非認知能力をつける」を意識し、「わかった!」「次のステップにいける!」「みんなとできた!」という「自信がもてる授業づくり」にとりこんでいます。

<非認知能力の例>

情報選択能力…たくさんある情報の中から必要なものだけを選び取る力

伝達力…わかりやすく他の人に伝えることができる力

向上心…あきらめることなく自分自身を高めていく力 など

その結果、日常の各教室における子どもたち一人ひとりの授業にとりくむ姿勢は、ほんとうに良くなっています。今後も学校全体で「授業が楽しくわかりやすい」+「学力向上」にこだわりながら授業づくりの研究を進めてまいります。

設問8「先生は、子どもの評価を適切・公平に…」設問24「通知表は…」の肯定的な回答の割合をさらに上げたいと思っています。校長から先生たちに「評価の妥当性」という言葉を強調して子どもたち一人ひとりの評価に向かってもらっています。適切(ふさわしいこと)・公平(偏らないこと)を、先生同士が確認しあい、子どもの評価にあたってまいります。

設問5「英語で発表…」に関しては、英語の先生とALTの先生たちで日々コミュニケーションをとりながら授業づくりをしています。また、ALTの先生たちが子どもたちに手を振りながら気さくに話しかけ英語でコミュニケーションをとってくれています。今一度、英語の授業、英語コミュニケーションの授業、日々の英語による対話などのあり方を振り返り、モデルチェンジをして、子どもたちが積極的かつ楽しんで英語で発表やコミュニケーションができる実践にとりこんでまいります。

設問6「タブレット端末(デジタルドリルを含む)での学習…」に関しては、日々進化している超スマート社会(Society5.0)においては必要な能力であることから、積極的な活用をすすめていきたいと思っています。各授業、ドリル的な自主学習(設問4「家庭学習を自主的に…」も含む)にもとりいれていきたいと考えています。しかしながら、タブレット端末を主とする授業展開にはまだ難しい状況であります。子どもたちにとってわかりやすく楽しい教材、発表やコミュニケーションがしやすい学習方法など、タブレット端末(デジタルドリルを含む)を有効に活用していきたいと思います。

## ■生徒指導・生徒理解・教職員に関すること

設問	項目の内容	R4	R5	R6
7	先生は、子どもたちを十分に理解している	69	65	69
9	先生は、子どものまちがった行動を指導してくれる	72	71	75
13	学校は、いじめのない学校づくりに取り組んでいる	72	65	69
21	学校では、子どもたちの個人情報を守られている	80	74	76
27	子ども同士のトラブル等に対し、丁寧できめ細やかな対応により早期解決ができています	51	48	51

昨年度の結果を受けて、各学年・学校全体で「子どもへの理解」「子どもへの指導」「いじめ防止へのとりくみ」「子ども個人情報」「丁寧な対応・早期解決」について「今一度、伝わる生徒指導」を心がけてとりこんでまいりました。引き続き、子どもたちの気持ちに寄り添いながら「伝わる生徒指導」に力を入れてあったかい二中づくりにとりこんでまいります。(「伝わる生徒指導」とは、校長が発した表現で、「第一に聴き、理解したい姿勢を示し」「理解の上で正しく指導」「よりよいステップが踏める言葉かけ」を大切に、子どもたちへの理解および指導を進めることです。)

## ■人権教育・オンライン・小中連携などさまざまなとりくみに関すること

設問	項目の内容	R4	R5	R6
14	学校は、子どもに生命を大切に作る心や態度を育てようとしている	73	69	67
15	学校は、全ての教育活動において、子どもの人権を尊重する姿勢で指導にあたっている	75	70	72
16	学校は、オンラインを活用したとりくみ(授業・懇談・補習など)を積極的に進めている。	80	72	63
17	学校は、ICT機器の取り扱いについて、子どもに丁寧に説明している。	64	47	48
25	学校は、小中連携を行っている。(箕面市は小中連携を進めています。)	64	61	58

設問13「いじめのない学校づくりに…」設問14「子どもに生命の大切に作る…」設問15「子どもの人権を尊重…」に関しては、各学年・学校全体でさまざまな題材を通してとりくんでいます。また、今年度もゲストティーチャーから子どもたちに「自分のこと、仲間のこと、地域のこと」を深く考えてもらいたい内容を学習させていただきました。例えば1年生では「地域学習」「多文化共生学習(国際理解学習)」、2年生では「キャリア教育」「多文化共生学習(国際理解学習)」「心とからだの人権教育(性教育)」、3年生では「平和学習」「進路学習」「心とからだの人権教育(性教育)」「地域学習」など、お互いを認め合い、差別やいじめを許さない心を育てています。さまざまな人権教育にとりくむなかで、校長から先生たちには「自分の言葉で思いを伝えることを大切に」と話しています。また、今年も子どもたちには集会のたびに「みんな やさしくなった?」「あったかい二中をつくろう!」と願いを込めて声をかけています。「いっしょに考え ひろげる未来」を主軸に、子どもたちが互いの生き方を保障し、正しいと思うことには一緒に行動にうつせるような人権教育と生徒指導に力を注いでいきたいと考えます。

設問16「オンラインの活用…」に関しては、コロナが5類に移行されたことが理由であります。学級閉鎖や学年閉鎖の時はオンラインを活用しています。子どもたちが接続することに大きく混乱することはありません。体調不良等で欠席した場合でもオンラインで授業を受けるケースもあります。保護者説明会や懇談など、オンラインを有効に活用していきたいと思います。設問17「ICT機器の…」に関しましては、教職員同士でICT活用技術を高め合い、積極的に授業等におけるタブレット端末の活用を進め、子どもたちに丁寧な説明を心がけていきたいと思っています。

設問25「小中連携」に関しては、例えば本校の生徒指導主事や人権教育担当の先生たちが各小学校の6年生の授業参観をしたり、中学校の評価方法や卒業後の進路について授業したりしています。図書館司書の先生も二中図書館の紹介を行っています。今年度も10月の大阪府の人権教育の研修を、1月の道徳教育の研修を校区(かやの幼稚園・萱野保育所・3小学校・二中)の全体研修と位置付けて実施しました。また、授業づくりをはじめ担当する分野別で連携するよう努めています。今後も、二中校区がともにあったかい空間となるようさまざまな活動にとりくんでいきたいと思っています。

## ■危機管理・施設管理に関すること

設問	項目の内容	R4	R5	R6
18	地震や台風などの場合の対応については、子どもや保護者に周知されている。	92	90	96
19	学校の施設・設備は学習環境において満足できる。	73	67	70
30	学校は新型コロナウイルス感染予防対策をしっかりと行っている。	81	60	-

自然災害や新型コロナウイルス感染症や不審者被害に関する対応の情報発信は、引き続き学校メール(ライデンメール)及びトモニクスからお伝えいたします。今年度は校区で火災が発生し、学校待機または下校誘導における緊急対応を行うケースがありました。避難訓練等を定期的に行っていることもあり、子どもたちも素直に先生たちの指示を受け入れ円滑な対応をとることができています。保護者のみなさまも協力的で助かっています。大雨等の被害で破損している箇所につきましては、箕面市教育委員会に強く修理依頼をしているところであります。子どもたちが安心して学校生活を送れるように、日頃から施設・設備の点検をして対応を心がけてまいります。

ここからは今年度と昨年度に校長が話し口調で綴ったものです。

○今年度～ 4月の学校だより第2号より～

<部活動について>

4月22日(月)放課後、部活動編成が行われました。入部を選んだ1年生のみなさんは慣れるまでいろいろと大変ですが頑張してほしいと思います。先輩たちも、みんなで頑張れる部にしてほしいと思います。地域スポーツなどの活動に所属している人たちも多くいます。先生たちは「応援しています!」学校生活も大切に頑張ってください。

4月9日(火)体育館にて、全校生徒に「部活動の現状」について以下の内容でお話しました。

<内容>

校長先生は困っています。

今年度は昨年度より生徒の人数が減ったことによって先生の人数が減ってしまいました。

二中は国の基準では学年のクラス数は3クラスの学校なのです。3年生も3クラスなら40人学級となってしまうので、大阪府に申請をしてなんとか4クラスになっています。今年度は1年生3クラス、2年生3クラス、3年生4クラスで学年のクラス数と基礎教室で頑張っていくことになっています。

二中のクラブ数は変わっていません。「1つのクラブに2名の顧問の先生を」と考えているのですが、先生の人数が減ってしまいきれない状況が生まれています。

1年生の部活動紹介の日までには何とか顧問の先生を決めたいと思っています。でも難しいし、正直困っています。校長先生は大学まで野球をしていて、17年間野球部の顧問をしてきました。みんなは専門的な指導を受けたいと思っていますよね。その気持ちはよくわかります。でもね、校長先生のように学生時代に経験してきた種目を顧問としてできるのはほんの少数で、全国の先生たちの7割から8割近くが経験したことのない種目の顧問の先生になっているのが現実なのです。

先生たちは8時20分から16時50分までが勤務する時間となっています。だから、16時50分を過ぎて必ず働かないといけないことはないのです。土曜日や日曜日は基本 お休みなのです。

国は「部活動の顧問は必ず担わなければならない仕事ではありません」と記しています。

先生は土曜日や日曜日にお子さんや家族のための通院や用事を入れたらいけませんか?

校長先生から先生たちにお願いをして顧問になってもらっています。なぜなら部活動は顧問の先生がいてはじめて活動ができるからなのです。先生たちも「生徒の頑張りがみたい」「部活動は生徒にとって大事なもの」とわかっているから専門的な指導ができなくても顧問になってくれています。わかってほしいな。

「より専門的に」「土日頑張りたい」などの考えで地域のクラブチームに所属して頑張る人たちがいます。先生たちも応援したいと思っています。私の子どもは外部野球チームに入っていました。親としては野球部と外部野球チームのどちらでもよかったです。子どもが「硬球で土日頑張りたい」と選んだので外部チームに所属しました。子どもが頑張る姿を親として応援するのだけど大忙しでした。中学校では陸上部に入部ができました。親として子どもに「授業や部活動、学校生活で迷惑をかけることは許しません」「学校で頑張る姿、頑張らない姿も本当の自分の姿、社会に出た時の自分の姿」と厳しく言って入部させました。平日に身体を鍛えることができたおかげで高校の野球部でも十分に通用する体力がついて役に立ったと思っています。だから、学校生活を大切にしてほしいのです。

でもね、日々いろいろなことが起きるのも部活動。それもわかる。部員同士もいろいろある。顧問の先生ともいろいろある。「顧問が叩いた」などテレビとかで流れるものはもちろん絶対にダメなこと。こういうのは別の話。

指導の仕方などで不満が出てくることもあるかもしれないよね。でもね、「顧問を変えて」など壊しにかからないでほしい。次に何も生まれないから。一緒につかってほしい。しっかり聞いてくれてありがとう。

○昨年度 ～学校教育自己診断の報告より～

<染髪について>

あなたのお子さんは

染髪していますか？

今、したいと思っていますか？いずれしますか？しませんか？

なぜ今はしないのですか？させないのですか？

では何歳からは OK ですか？大人になれば勝手ですか？

さて、9月の文化祭で、10月の体育祭で発表や種目に参加していたことに対してご意見をいただきました。

文化祭では箕面市人権宣言を並んでアピールしました。

体育祭では学年種目に出場し、自身の役割を先生のそばで果たしていました。

「そもそもダメ!」というご意見の方が多いのだと思います。

せめて「髪の色を黒に戻して参加させるべき」というご意見だと思います。

「二中の先生は何も指導していない!」なのでしょうかね？

二中の先生でどうするべきかをみんなで悩んでいます。

日頃から本人には話をします。諭す場合もあれば厳しめに指導することもあります。

また、お家の人と何度も連絡をとって話もします。

先生たちにも意見の相違が出てきます。話し込んでいる先生ほど「ちゃんとさせて出したい」と。

先生と子どもたちでぶつかります。

前日まで、当日の直前まで言い続けます。

ほとんどが「ちゃんとして」当日頑張ってくれます。

その当日が文化祭や体育祭なのです。

「ちゃんと」した子どもが「なんで!…」と直接向き合った先生に納得いかない態度で言ってきます。

損なことなのでしょうかね？

「ちゃんと」したことをしっかりと認めて「それでいい!・それがいいの!」と返します。

お家の人もそう返してほしい。

当日、「ちゃんと」しなかった子には罰的な対応が必要ですか？

当日、みんなと参加させて「『ちゃんと』してほしかった!今度は『ちゃんと』するぞ!」と思いを伝えます。

もちろん、お家の人にも伝えます。

私が先生たちにそのように向き合ってほしいと伝えています。

少しでもみんなと参加すると子ども同士で新しい関係が生まれます。

クラスに居場所ができます。いいこと、そうでないこともあります。

また、次の対応が始まります。

学校はそんな毎日なのです。

<服装等について>

あなたのお子さんは

生徒手帳にあるように標準服を着て登校していますか？それとも、させていますか？

周りの様子を見て少しずつ着崩していますか？

ブレザーを着ていますか？シャツインしていますか？していませんか？

フード付きのトレーナーを着て登校していますか？

スカートの下に体操服の長ズボンをはいて登校していますか？

二中は生徒手帳にあるように標準服を着て学校生活を送ることが基本です。

「ブレザー着なさい!」「シャツインしなさい!」「スカートの下に体操服の長ズボンやめなさい!」と

厳しい口調では指導していません。

先生が厳しく言うから「ちゃんと」しなければならないのでしょうか？

二中は生徒手帳にあるように標準服を着て学校生活を送ることが基本なのです。

ならば、子どももお家の人も守るようにするべきだと思うのです。

でも、一人ひとり、お家ごとに「基本を守る」のスタンスも大きく異なります。

正直、学校とお家が「基本を守る」のスタンスを言い争うのはあまり意味がないような…。

生徒会役員と先生たちで話し合いをしました。

防寒着やフード付きのトレーナーを着たまま授業を受ける子と、ブレザーを着て授業を受ける子などの意見の出し合いがありました。

「ブレザーを着ている人は校則を守っているのに…。」「みんなもっと守るべきだ。」

十分わかる。

損なことでもない。

私から「生徒手帳の内容を変更する?」「私服の学校もあるよ」と聞くと、

「変更まではいかない」「変更すると、これはどうなんなど 次のものが出てくるから」

「今の着こなしがちょうどいい」という意見も…。

お家の人は「もっと学校がきちん指導するべき」「学校が注意しないから…」のご意見が多いかも。

「ちゃんと」ってどういうことでしょう？

今の時代だからこそ

「ちゃんと」標準服を着ること、授業をはじめとする学校生活を「ちゃんと」送れることを

子どもたちにとって意味のあるように、話し合っていきたい。

<スマホについて>

あなたのお子さんはスマホをお持ちですか？

どうしてスマホをもたせるのでしょうか？

中学生になると持っている人がほんとうに多くいます。

とにかく何をするのも便利です。

きっとお家で約束をしているはず。その約束のもとでお家の人が持たしています。

二中は生徒にもお家の人にも

「許可なくスマホを学校にもってくることはいけません」

「持ってくる場合は、先生に預けましょう」

と伝えています。

そうできる人であってほしいです。

そうできない人はカバンに、ポケットに…。

結果、先生にバレて没収されようものなら…。子どももお家の人も様子が…。

いったん持ってしまうと何よりも大事なものになってしまうスマホ。

ほんとうに怖いものです。

学校は人と人との関係性を築く場所でもあります。

だから、いい時とそうでない時があります。

そうでない時に、もめごとが起きます。

スマホの時代。

悪口、陰口、嫌がらせ、画像が勝手に…、仲間はずし…。SNS が付随したいじめ事案に。

ショックを受けます。

いろんな人たちが知ることに…。不安と怒りが…。

いじめの定義では学校内外は問わずとある。学校はなんとかしように対応します。

うまく解決に至らないときに、お家の人からは「どうしてくれるんですか」と…。

考えてほしいのです。

学校でスマホを使ったトラブルならまだしも。

学校外、お家の中でスマホを使っての SNS がほとんどでなんです。

お家の人子どもに約束させたはず。

お家の人に大きな責任があるはずなのに…。

大きな事件になると、世間は「学校悪」という流れに。

(私の造語「学校悪」…学校の対応で「できていない」「していない」ことで「学校が悪い」ということになりがち)

加害側の子やお家の人に対応に苦しんでいるのに。

「学校に力がない」「どうせ先生なんて」と…。

何かおかしい!

学校の対応で「できていない」「していない」ことを指摘されることはかまわないのです。

被害の側に立つこと、そして事態が悪化しないこと、その行為を反省させること

子どもたち、先生、お家の人で落ち着いて話し合いたい。

それが絶交でも、修復でも、しばらく距離をとるでもかまわない。

子どもたちの よりよい明日をめざしたい。